

校長室の窓から 288

080915 ひまわりの種のふしぎ

3年生の女の子が、休み時間に手にいっぱい何かを握って教室に戻ってきました。よくみると、ひまわりの種です。

夏の間、3年生の花壇にきれいに並んでいたひまわりですが、今ではすっかりうなだれて、枯れてしまっているものもあります。

もう夏も終わり。みっともないので、数日中に枯れた茎を抜いて処分する必要があります。まだ種がいっぱいついているままなので、子供たちには、ぜひ今のうちに種をとってほしいものです。

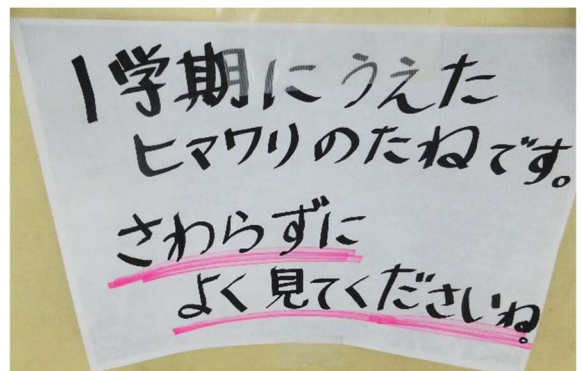


3年生の教室前廊下には、ぎっしりと種がつまった花の部分が並べてありました。よく観察すると、なんだか不思議な気分になります。

この**種の並び、どうなっている**のでしょうか。

ひまわりの種は、花の中心から外側に向かって右回りと左回りの二種類のうずを描きながら配置されています。この配置により、限られた面積に種をすき間なく効率的につめ込むことができるのだそうです。

自然界におけるスペースの最適利用ですね。



ぜひ子供たちには、こういう身近な「なぜ」「どうして」を大切にしながら、豊かに自然体験をしてほしいものです。

愛と信の仲よしこよし

中太閤山小学校長

堀 かおり

